

## もの言う牧師のエッセー 第71話

震災2周年

### ①「プロジェクト白い箱」

高さ57メートル、縦横40メートル強の巨大な白い箱の中身は福島第一原発1号機である。3号機と同じく建屋が吹き飛び放射線の飛散が著しい1号機を覆う箱型カバーの設置は着工前から問題が続出した。何と発電所の設計図がなかったのだ。データが建屋内のPCに保存されてるためアクセス出来なかったという。

工事を請け負う清水建設は結局、建物全体をレーザー स्क্যানして3D画像を作成し、それを基に周囲に散乱したがれきを含め1号機の100分の1スケールの模型を作り計画を練った。放射線で人が作業出来ないために凸凹をかみ合わせて柱や梁をつなぐ典型的な日本の伝統工法が用いられた。そのため当初2万本と予想されたボルトは不要になった。国内に14台しかない日本一の巨大クレーンをトレーラー70台に分けて搬入した際、重量で地中内の配線などを壊さないように鉄板で通路を補強。組立作業は6台のカメラからクレーンの運転席に届くミリ単位の位置情報に頼りつつ、吊り上げたパーツが空中で回転するのを抑え、壁のあちこちから突き出たがれきを遠隔操作で除去しながら進行、無事に7ヶ月で完了した。「人が危機に面した時、技術は進歩するものです」と今回の大仕事のリーダーである印藤正裕さんはほほ笑む。聖書には

**「私は弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、私は弱い時にこそ強いからです。」**

**Ⅱコリント人への手紙 12章 10節 : 共同訳**

という不思議な言葉がある。強い時や調子がいい時は誰でも勢いがあるのは当たり前だ。しかしキリストの力は弱い時にこそ最も力を発揮するという素晴らしいものなのだ。いまだ復興への道険しい日本もまた、神の力で必ず強くなれると信じる。

2013-3-11

